

2002年度JLA中堅職員ステップアップ研修
2003年3月3日（第11回）
齋藤 文男（富士大学経済学部）
小田 光宏（青山学院大学文学部）

領域：高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上（区分B）

レファレンスクエスチョンの処理

- 1 はじめに（オリエンテーション）
 - ・ご挨拶
 - 講師紹介
 - 本日のプログラムの紹介
 - ・トランザクション記録の意義
 - 情報源（ツール）利用の把握
 - 戦略（ストラテジー）と手順（プロセス）の再構成
- 2 レファレンスクエスチョンへの取り組み(1)：課題1，課題2，課題3
- 3 検索に向けてのストラテジー
 - ・多様なアプローチの想定（課題3を例にして）
 - 主題と検索語（項目）の広がりの可能性
 - ・キリスト教
 - ・棟上げ式
 - 検索する情報の多面的な性質
 - ・宗教儀式に関する情報
 - ・建築に関する情報
 - ・地域の習俗・習慣に関する情報
 - ・プロセスの確認（構想）
 - ツールの選択 = メディア，タイプ（種類），タイトル
 - 検索手段の選定 = 目次，見出しの通覧，索引
 - 結果の成否 = 成功時のリスク，失敗時の改善点
- 4 レファレンスクエスチョンへの取り組み(2)：課題4，課題5

5 レフェラルサービスの位置づけ

- ・ 二つの用語
 - 紹介
 - 照会
- ・ 二つの関係の準備
 - 他の図書館との協力関係（協力レファレンス）
 - 他の機関との連携
- ・ 対象

6 レファレンスクエスチョンへの取り組み(3)：課題6，課題7，課題8

7 ネットワーク情報源の可能性

- ・ 現状
 - 有効性（非商業的情報の発信の拡大）
 - 制約（情報の変化，信頼性など）
- ・ 効果的な利用方法
 - ヒントとなる情報の入手
 - カレントな情報の入手
 - 裏付け（印刷メディアとの照合）の必要性
- ・ 「レファレンス」の原義に基づく対応
 - 典拠（再確認可能性）としての「参照」
 - URLの明示
 - 確認日時の提示
- ・ 留意点
 - アクセスするサイト（公式ページ，WebOPAC.....）
 - 検索エンジンの活用（ディレクトリ型，ロボット型）

8 レファレンスクエスチョンへの取り組み(4)：課題9，課題10

9 今回の研修において，扱われていない「情報サービス」関係の領域（おわりに代えて）

- ・ 原理的理解（歴史的な理解）
 - 「利用者教育」との関係
 - 「読書案内」との関係
- ・ 構造的な位置づけ
 - 資料組織技能の向上
 - 情報サービスの経営面の工夫（探索結果の組織化など）
- ・ 情報検索技能
 - 情報検索にかかわる諸技術
 - データベース（レファレンスリンク集）の作成技術